

## 編集後記

今年度は、神戸の地に大変ゆかりのある山中伸弥教授が、iPS細胞研究でノーベル医学・生理学賞を受賞されるという大変喜ばしいニュースがありました。その成果が含有する可能性は限りなく大きく、近い将来、難病の治療や新薬の創造に大きく貢献することが期待されます。

第51巻には、総説1編、原著5編、症例報告1編が掲載されています。西岡弘晶先生の総説「高齢者の栄養の諸問題」は、超高齢化社会を迎えているわが国の医療現場、生活現場で、まさに日常的に発生している高齢者栄養の諸問題を取りあげています。ガイドラインなどの最新情報が紹介されている珠玉の総説です。是非ともご詳読下さい。続く原著には、「電子カルテ導入」に関する取り組み、「乳癌」、「造血幹細胞移植」、「再生医療」に関する治療・診断・予後、さらには、「1型糖尿病患者さんに質的記述的アプローチ」の取り組みが報告されています。症例報告では、致命的にもなりうる難治性尋常性天疱瘡に対して免疫グロブリン療法が奏効した症例が紹介されています。原著、症例報告いずれも興味深い内容ばかりで、読み応えのある号になりました。

お気づきのことと思いますが、昨年号から各病院の学会報告数、論文報告数の一覧が掲載されています。この一覧によると、その数は病院ごと、部署ごとに大きな相違が見受けられます。学会や論文で公表することは、発表者自身にも

財産になりますし、またそれ以上に自分自身の経験が、より多くの医療従事者の共有財産になります。また、専門医や指導医の資格取得にも論文発表は必須条件となりつつあります。貴重な症例や臨床研究を発表し、論文化することを習慣づけることが望まれています。身近な論文発表の場としてこの紀要がお役に立てられたら幸いです、こぞって投稿をお願いいたします。

昨年度から引き続き、今年度も年度内に発刊することができました。お忙しい中、論文や業績を投稿していただいた方々に対して、迅速に発刊をすることが我々編集担当者にとっては最大の責務と思っています。編集にご協力いただいた事務局の皆さまに心から感謝申し上げます。

西神戸医療センター 小児科

松原康策